して だ いせき けんしゅつ いこう いしぐみろ しょうど 小田遺跡から検出された遺構は、石組炉、焼土ブロッ まいせつどき ク、埋設土器などであり、住居跡は発見されていません。

遺物は、縄文時代晩期(3,000~ 2,300年前)の土器が多く出土して しゃこうき どぐうかんけいひん おり、遮光器土偶完形品 1 点を含む 130点の土偶、亀形土製品、スプーン形土製品、多数の石棒・石剣類な ども出土しました。



中でもスプーン形土製品は当時の全国出土数の1割にも当たり、縄文人の食事の研究を行うための貴重な 資料として注目されました。

土偶や石棒・石剣類などは、マツリや呪いなどに使われた祭祀道具ではないかとされ、住居跡が発見されていないことなどから、この一帯が縄文人にとって特別な場所だったのではないかと考えられています。



遮光器土偶(昭和53年度調査)



スプーン形土製品 (昭和53年度調査)